

## 平成30年度 南区総合防災訓練について(実施報告)

(指定避難所内訳)11避難所

開設避難所(地域)	参加者数	備考
新飯田地域生活センター(新飯田)	157	
白南中学校(茨曾根)	298	自主防災訓練
庄瀬地域生活センター(庄瀬)	5	
小林小学校(小林)	219	自主防災訓練
臼井小学校(臼井)	148	自主防災訓練(区支援)
大鷲小学校(大郷)	60	自主防災訓練
鷲巻地域生活センター(鷲巻)	103	自主防災訓練
根岸小学校(根岸)	566	自主防災訓練(区支援)
大通地域生活センター(大通)	501	自主防災訓練
白根地域生活センター(白根北部・中部)	488	自主防災訓練(区支援)
月潟中学校(月潟)	352	自主防災訓練(区支援)
合計	2,897	

■実施日:平成30年11月4日(日) 午前8時15分～午前11時30分

■想定:午前8時15分に長岡平野西縁断層帯が原因とみられるM7.0の地震が発生し、南区内で震度6を観測したことを想定

### ■訓練内容

(コミ協・自主防災会・避難所指名職員の主な訓練内容)

\* 南区総合防災訓練同日に各地域で自主防災訓練を実施する地域も多く、区は避難所指名(担当)職員を派遣し、自主防災訓練の中で連携した訓練を実施

○情報伝達訓練、避難行動要支援者訓練、物資運搬訓練、避難所開設訓練

- ・災害時のコミュニティ協議会連絡体制に基づく情報伝達訓練(連絡体制の検証含む)
- ・避難所開設訓練(コミ協単位、白根地区は合同で各1か所を開設 計11ヶ所)
- ・災害対策本部と避難所との通信訓練(避難所開設及び避難者数の報告)等

※災害対策本部訓練として、関係各所との情報共有訓練や、被害を想定したシステム入力訓練を実施

### 〈訓練実施施設:参加者数〉

区分	参加者数	参加者	備考
避難所 (区内11ヶ所)	2,897	避難所指名職員、コミ協、自主防災会、市民、施設管理者(学校教員等含む)	避難所開設訓練(自主防災訓練も実施:茨曾根・小林・臼井・大郷・鷲巻・根岸・大通・白根地区北部(中部)・月潟)
区役所関係	158	区役所職員、南消防署、南警察署等	災害対策本部設置訓練、情報共有訓練、防災行政無線等運用訓練
その他	108	白根高校、味方体育館等	情報共有訓練、避難所開設訓練補助、地震時初動対応訓練等
合計	3,163	前年比70.5%増(1,308人増)	

※白根地区地域生活センターにて、NPO法人コミ災害対策センターより災害時に必要な物品(防災グッズ)の展示紹介を実施

※新飯田地区(7/1:440名)、庄瀬地区(9/30:600名)、白根地区南部(9/30:231名)、味方地区(11/17:601名)は、別日程にて自主防災訓練を実施済

～アンケート結果(主なご意見等)～ ※今回のご意見等で回答が必要と思われるものについて、回答を記載させていただいております

### 〈避難所開設訓練・連絡体制の検証〉

<p>○ 避難所開設時間が打ち合わせ会議と違っていた。8:15発災で8:30開設は実際の災害では無理だと思う。(小林地区)</p> <p>⇒ 各コミ協・自主防災会説明会でも今回は訓練であるため避難所指名職員は8:30に避難所開設する旨お伝えしておりますが、今後の訓練では、実際の災害を想定した時間設定の訓練も検討したいと思います。</p>
<p>○ 避難所開設担当職員が開錠後に訓練会場(体育館)にいなかった。(所在が不明であった)自主防災会で本部の中に席を用意していた。(小林地区)</p> <p>⇒ 避難所指名職員には、避難所開設後に本部との避難所開設報告や避難者報告等の連絡をFAX、防災業施無線がある教務室で行って行っていました。今後の訓練では各自主防災会の方々と更に連携がとれるよう参考とさせていただきます。</p>
<p>○ 避難者カードについて、配布用と訓練用があり紛らわしかった。配布用はなくてよかった。また、表記を「配布用」ではなく「見本」などにしてもらえるとわかりやすいかもしれない。(茨曾根地区)</p> <p>⇒ 今後の訓練の参考にさせていただきます。</p>
<p>○ 避難物資の搬入について、訓練中に避難物資が届けられたが、誰が受け取ったかわからずに気がついたら置いてある状態であった。避難所指名職員もいつ届いたかわからない様子であり、避難者が大勢いる中で他の対応もあるだろうが、まぎれてしまわないようにしなければと思う。(茨曾根地区)</p> <p>⇒ 救援物資の運搬については、避難所指名職員又は各自主防災会役員へ一声かけて搬入するよう徹底いたします。</p>
<p>○ 情報伝達について、今回の訓練では、災害発生場所が午前8時15分と想定されてましたが、区役所からの鷲巻地区自主防災会への伝達は、午前8時40分でした。各自治会では、すでに集会場に集合しているところもあったことから、午前8時30分までには情報伝達していただきたいとの意見がありました。(鷲巻地区)</p> <p>⇒ 今回の訓練では、本年の西日本豪雨などがあったことから、各コミ協・自主防災会内の連絡体制の検証をしていただくため、通常水害時に主に使用する「災害発生時のコミ協等連絡体制」により、避難所開設後の午前8時40分～午前9時の間に連絡をさせていただきました。時間設定については、今後の参考とさせていただきます。</p>

## 〈自主防災訓練関係〉

○ 事前会議で示された手順書がわかりにくく時系列で細かく示してもらいたい(役割等も)市職員に聞いても自分の持ち場しかわからず説明できないのは困る。(大郷地区)

⇒ 今回の訓練では、発災時刻を区統一し、各地域で行う自主防災訓練については、各地域の内容、スケジュールに沿って行っていただく旨説明していましたが、説明が不足しておりました。次年度は、大郷地区の自主防災訓練を区の方で支援する予定としておりますので、今回のご意見を参考にさせていただきます。

○ 今回、初めて中学校で開催し、中学生による「新聞皿・スリッパ作り」があり、地域の人も中学生の説明を熱心に聞いていた。普段しゃべらない子も積極的に地域の人に入っていったそうで、中学校の先生方からは、「来年もぜひ一緒にやりたい」との声をいただいた。(月潟地区)

○ 高校生(白根高校)ボランティアの参加、コメリの防災グッズ説明をするための設置したエアロシェルター(防災訓練に勢いがついた)、中越防災安全推進機構の講話内容の充実、白根小学校教頭の小学生の災害時の児童引き渡しの話などは訓練に取り入れて良かった。北部の防災訓練は6回目だが、年々参加者の減少に伴い、助成金が減り地域の持ち出しが増加している。また各地で災害が発生していることを考えると防災訓練は必ず計画した方がいいが、避難所を含め、方法、内容の再検討は必要である。北部地区には避難所がなく、遠い。(白根地区北部)

⇒ 訓練内容や民間施設との一時避難場所協定については、いつでもご相談をお受けいたしますので、災害に備え毎年自主防災訓練の実施をお願いいたします。

○ 実施日について、11月4日という日の設定は連休で個人的にも組織・地域的にも行事・行楽etc計画が多数あり、住民を困惑させた。案の定参加者が少なく、防災意識の啓発効果は少なかったように思う。(大郷地区)

⇒ 次年度の訓練日程を決定する上で参考にさせていただきます。(次年度は、連休、学校行事(テスト)、市の行事等を考慮し、11月17日(日)に水害を想定し、南区総合防災訓練実施する予定。)

○ 今回の南区総合防災訓練については、先の9月30日に自主防災訓練を実施したこともあり、次年度に向けて白根地区北部と中部防災会の合同訓練の見学を行った。中越防災安全推進機構の講師の話は真実味があり、興味がわき、参考になった。(白根地区南部)

○ 中越防災安全推進機構様より、有意義な講話を伺うことが出来てとても良かった。避難所運営の模擬訓練では、ブロック別(地域・自治会毎)に分かれて移動し、そこへ小学生児童が合流する場面があったが、行く場所がわからない児童がいて時間がかかってしまった。子供たちは普段から自治会名の把握と理解が必要だということが分かった。(例:高井興野自治会・高井東自治会はどちらも通称「高井」で通っているため)また、大人も積極的に声掛けや誘導が必要であり、子どもの目線での問題点も認識していかなければならないと思った。(根岸地区)

○ 今年の自主防災訓練は、南区支援を受けて防災専門の講師(中越防災安全推進機構)を派遣していただき、実際の避難所様子など貴重な話を聞くことができて良かった。次年度以降は、更に小・中学校と連携し、若い保護者等が参加できるように計画していきたい。(臼井地区)

○ 白根高校生徒のボランティア協力(避難所受付・段ボールベット作成)、コメリの防災グッズ説明をするために設置したエアロシェルターは大変好評であった。また、中越防災安全推進機構の講師による講話、白根小学校からの小学生の災害時の児童引き渡しの話などは訓練に取り入れて良かった。(白根地区中部)

## 〈その他〉

○ 今年は全国各地で様々な災害があり、備えの重要さが強く認識されたようで、参加者は真剣に取り組んでいたように感じた。(大郷地区)

○ 災害は予知不能で、厳寒期の深夜、大雪の中発災したら？避難所は無能になるのではと思う。個人・小地域(自治会)の防災グッズを充実させ、想定外をなくすことが最重要と思う。(大郷地区)

⇒ ご意見を参考に今後も防災啓発に努めていきたいと思えます。

○ 訓練同日に当防災会でも訓練を実施し「情報伝達訓練」・「安否確認訓練」を実施しました。「情報伝達訓練」では、受領者の確認が必要不可欠と考えて、必ず「返信」で「了解」または「確認」を受けることになっております。しかし、南区からの配信メールには「返信しないでください」となっており、受領者が確実に受領、了解したかの確認が取れないのではないかと思います。発信したままで良いのでしょうか？(大通地区)

⇒ ご意見をいただきました「にいがた防災メール」は、現在南区関係だけで9,878名の登録者があり、送信先の情報はある程度確認することができますが、返信機能はついておりません。災害時には、一方的な情報伝達が多くなりますが、防災行政無線、テレビのデータ放送、ラジオ、災害時のコミ協連絡体制による連絡など、様々な手段により災害情報の伝達を行っていきますので、ご理解いただきたいと思えます。

○ 新飯田地区芸術祭と同日だったこともあり、大勢の人が来館し、防災に関する配布物を受け取り、互いに防災対策や避難時の注意点などを話し合っていた。(新飯田地区)

○ 普段から地域住民同士の繋がりがいかに大切であるか感じるが、それを地域全体で共有するにはどうしたらよいか？要支援者の支援体制確立の意味合いもあり、地区社会福祉協議会で高齢者本人やその家族を対象としたアンケート調査(どんなことに不安を感じているか等)を実施、現在聞き取りをしている。地域で支える体制の手がかりになると良い。(新飯田地区)

⇒ アンケートの調査結果を可能な範囲で区役所にもお伝えいただき、情報共有しながら要配慮者の支援体制について考えていきたいと思えます。

・今回の訓練において、消防団の方々や消防OBの協力をいただき運営は何とかいったかと思うが、現在私たちの自主防災会においては、役員が1年または2年で変わってしまう体制のため、その中で毎年の訓練の運営をスムーズに進めるのは大変難しい。(訓練だけでなく、自主防災会という組織自体の運営等も)何かしら指導を受けられるよう、市や区でも考えてほしい。(茨曾根地区)

⇒ 区では、いつでもご相談をお受けいたしますのでお声かけください。